



も と は し つ う し ん

本橋通信

第50号
2024年10月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★



たくさんの良き思い出をアリガトウ...



皆さまこんにちは。本橋通信第50号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。最近の新聞を読んでいましたら、「メガバンク、手形・小切手を廃止へ…」という、とても寂しいニュースが目。銀行員として社会人をスタートした私にとって、手形と小切手のエピソードはキリがありません。

約束手形は一定期間後に現金化できる証書です。商取引の中で3カ月後など一定の期日にいくらを払いますよと文字通り約束するチケットのようなもので、今、手許にお金が無くても、商取引が可能となります。

家電量販店Nは、信販会社Jが振り出すの大量の手形を割り引く(期日までにお金が欲しいので、利息を割り引かれても資金化を急ぎます)ために持ち込む難敵でした。手形割引という融資形態の一つで、消費者はボーナス払いでエアコン購入→6ヶ月先支払いの膨大な手形がNへ→多忙を極める若手銀行マンM君へ膨大な事務負担が発生！もう一つの小切手とは、銀行が発行する専用用紙に金額などの支払条件が記載され、現金代わりに支払いできるチケットで、大金を持ち運ぶことなくコレ一枚あれば決済が可です。外回りでお客さまから「小切手入れといて」と、取引先が振り出す小切手を預かるのは日常。ここでちょっとした事件勃発！月末の渉外銀行マンM君は、アチコチへ集金やノルマセールス活動に超多忙スケジュールをこなし、充実感に浸りつつ店に帰ると…あるお会社から預かった小切手がありません！預かり帳面のカーボンには「確かにお預かりしました」の控えあり。これはマズイ〜と、こっそり小声で経理の社長奥様に電話すると、「知らないわよー、ポケットにでもないの？」と言うので、まさかのゴソゴソ搜索の末、背広内ポケットに小切手様を発見で一件落着です。とまあ、時代の流れ止む無し…と悪戦苦闘したチェックライターで、昔の思い出脳に刻みます(寂)。



MFAO(Motohashi Financial Advisors Office)の本棚より



私の本棚から、『きみのお金は誰のため』田内学著(東洋経済新報社)のご紹介です。田内氏は元ゴールドマン・サックス証券のトレーダーから独立。お金の向こう研究所代表として、お金や経済についての情報発信をしています。巨大屋敷に住む大富豪らしきボスが、二人の若者に様々な観点からお金や社会の仕組みについて、レクチャーというか議論をしていきます。百万円札束を積み重ね、「これが1億の札束。でも、こんなのただの10キロの紙切れやー」と始まり、①お金自体には価値がない。②お金で解決できる問題はない。③みんなでお金を貯めても意味がない。と3つのお金の謎解きへ…④格差の謎、⑤社会の謎は世の中の仕組みへと展開していきます。結末はボスの正体も…元は、物々交換だった経済が銅銭・小判と交換へ、そして地租改正で米や土地ではなく、税金を紙幣で納めることになり、紙切れである「紙幣」に価値を感じざるを得なくなって…※キャッシュレス云々もありながら、現代は円での納税です。

政府は税金をどんどん(正しく!)社会に回し、私たち民間も感謝の対価として使うことで、受け取る人の生活を支えたりと、お金によって人々が支えあう社会が実現しています。お金は現代社会に必要不可欠な道具であるにも拘わらず、その取扱説明書もなく、お金について学ぶ機会もないまま、生きてきた人がほとんど。日々の生活や人生の決断がお金だけに左右されることなく、その向こうに存在し、私たちが一生懸命生きるべき現代社会を、新しい視点で考えるキッカケになりそうな2024年ベストセラー(=お金の教養小説)の一冊かと思えます。



✍️ IFA (Independent Financial Advisor) 本橋の視点より ✍️

今月は各地方新聞紙面に掲載されたコルい運用・経済コラムはお休みしまして、米国の独立系資産運用会社である「キャピタル・インターナショナル社」より、クローズドのオフィスツアーにご招待いただきましたので、潜入レポートいたします。皇居が一望できる東京・丸の内で開放的なオフィスロケーション。運用会社が資産運用実務の場(= α の現場)を、私たちのようなFAにオープンにすること自体、非常にまれな機会かと思えます。

キャピタル社は以前に本棚でも紹介しましたが、1931年世界恐慌の最中、米国ロサンゼルスで創業した独立系資産運用会社であり、販売窓口としての系列証券会社やシステム会社も持たず、資産運用が唯一の事業です。90年を超える歴史、約350兆円を超える運用残高(2023年12月末)を誇りながら、創業以来、独立・株式非公開を堅持してきた、「アクティブ運用特化型」の資産運用会社なのです。改めて実際の現場でお話を伺うと、徹底した長期的視点での経営体制やお客さまの大切な資産をお預かりする矜持を垣間見れます。米国籍アクティブファンドではシェア15%でNo1、キャピタル社の運用残高の内、約2/3は一般的な個人投資家が長期資産形成を目的とする非課税制度(IRA \equiv 日本のイデコ、401K \equiv 確定拠出型年金、529プラン \equiv Jr.NISA)にて利用されています。これは「投資の成功で人々の人生を豊かにする」とのキャピタル社のミッション通り、同社のファンドは、一部の資産家顧客層に限ったものではなく、広く一般家庭の生活者が人生の目標を実現すべく、コツコツ長期運用に耐えうる品質に拘っています。最古のファンドICA(ザ・インベストメント・カンパニー・オブ・アメリカ)は、設定が1934年ですから、なんと90歳！いまだ現役のファンドです。流行りファンドの乱造とも無縁。アクティブハウスらしく、とにかく付加価値はリサーチ、独自の運用プロセスを構築し(ここが同じく米系運用会社のフィデリティ社と違う)、運用者もクライアントサービスの方々も、経営理念が浸透している証のように、勤続年数が長いようです。実は今回お誘い頂いたMさんとは私がFAとなった10年前からのご縁ですが…お互いまだまだですよ～(笑)と。



◆編集後記◆

高校3年生の娘が最後の文化祭でミュージカルをやるというので、夫婦で見に行きました。若い男女2人が夢を追う「ラ・ラ・ランド」という映画の再現のようです。主役脇役、照明、音響等々とクラス全員で役割分担やお互いの協力のもと何かを成し遂げるのは、とても清々しい気分になります。そもそも学校生活は勉強ばかりでもなし、大人になれば皆で何かを…という機会も少ないし。私たちの学園祭はただ大騒ぎするだけで品のない男祭りの記憶しかなし。



◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快!)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋F α オフィスWEBサイトは と検索! <https://www.pfa-withyourlife.jp/>

皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp